

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol. 8 コソボに乾杯！

「ねえ、エミさん、コソボ大使との交流会に参加しない？」
ニュースキャスターの友人からの思いがけないお誘い。
「国を紹介しつつ、外から見えるコソボの問題点や課題、経済
的発展のアドバイスも欲しい」という趣旨とのこと。

こ・そ・ぼ？ 正直、「紛争」のイメージ以外、何も浮かば
ない。まっとうな意見が出せないと他の参加者にも迷惑で
は？ と、一瞬思ったけど、興味には勝てない！ 即答で「は
い！」と言ってしまった。

でも、そもそも、コソボってど
こ??? のレベルのまま、緊張
しつつ大使館へ。実は筆者は若か
りどころ、某国大使館で秘書をし
ていた。その時のトラウマ(?)で
「His Excellency」(大使閣下)なん
て呼ばれている方々はどれも恐れ
多い……。

品良く緑をあしらった空間にラ
ウンドテーブルが準備され、それ
ぞれバックグラウンドの異なる20
名弱がそろった。

そこにさっそうとAhmet SHALA
大使が現れた。2 mはあろうかと
いう長身の大使は、満面の笑みを
浮かべながら、「WELCOME!」と超
フレンドリーだった！

「コソボがどこかご存じです
か？」とおっしゃる。

みんな「大使、ごめんなさい！
地図を見るまで知りませんでした」の表情。コソボは旧ユーゴスラ
ビア、セルビア共和国から独立。アドリア海を挟んでイタリ
アの東に位置する。

「皆さんはコソボといえば『紛争の国』だと思っていらっ
しゃる。しかし、それは過去の話です！」

ええっ、違うんですか！？ 「Oh! 違いまーす！」。

紹介されたスライドでは、夏は緑にあふれ、冬はス
キーができる、まさに観光地。う、美しい。それ、カ
レンダーにしてください！

「先日、某旅行会社の方が安全性について質問にいらっ
しゃいましたが、『まずは行ってみてください。もし、あなた
に何かあったら、私、ハラキリします！』と申し上げました」

普通に事故っても？ 「Oh! そのときはハラキリしませ
ん！」。大使、結構おちゃめ。

そして筆者は学んだ。確かにコソボは1990年代後半、セル
ビア人とアルバニア人の対立による紛争に苦しんだ。

しかし、コソボは頑張った。マイノリティーの人権を守り、

平等の機会を与えるといった内容
を含む憲法を制定し、2008年2月
に独立を宣言。

当時、財務大臣としてその場に
立ち会った大使によれば「私の人
生の中で最も感動的な瞬間でし
た」。ウルウルした。

残念ながら、ロシアの反対で国
連安全保障理事会からは承認され
ていないが、国際司法裁判所はコ
ソボの独立宣言は国際法に違反し
ないとの勧告的意見を出し、現在
は100以上の国々が独立国として
承認している。

「皆さんご存じないでしょうけ
ど、マザー・テレサの母国はコソ
ボです！」。うお～、そうなんだ！

「そして、Dr. Ferid Muradの祖
国でもあります！」。うお～！ …
…って、誰？

「ノーベル賞の受賞者で、バイア
グラ®の開発のきっかけをつくっ

た方です」。おお～。

現在、ヨーロッパで最も平均年齢が若い国で(25歳!)、英
語教育も徹底され、エンジニアの活躍も目覚ましい。そして、
ワインがうまい！ あれ？ イスラム圏でしたよね？

「いえいえ、私も飲みます！ さあ、乾杯っ！」

それにしても、大使、プレゼンうまっ！ あなたこそ、本当のコソボ共和国Brand Ambassadorです！
と拍手喝采したのでした。



※ 撮影協力：デリリウムカフェトキヨー（霞が関）